

人形劇『かえるくん かえるくん』ひぼぼたあむ

大江町キリスト教会に人形劇団をお迎えして、本格的な人形劇を見てきました～！

いつもと違う雰囲気、しかも、あゆみこども園の子どもたちだけではなく、にじいろ保育園と大江幼稚園のお友だちもお誘いして、大江町内の就学前の子どもたちが1か所に集まり、人形劇を楽しみました。約1時間という時間でしたが、子どもたちは最後まで集中して見ている姿に、この小さい年齢でも、こんなに集中して見ているとは…！正直驚きでした。劇団長の永野さんの話では、年齢問わず、興味のあるものには、集中する時間と緊張をゆるめる時間を繰り返しながら、子どもたちそれぞれが、楽しむ力を持っているとのことでした。劇が終わってから、大江幼稚園の年長さんとぞう組さんだけ、特別に実際に使った人形や小道具に触れたり、舞台裏にも入れさせていただきました。



～お着替えについて～

朝晩の寒暖差で園での着替えが増えています。お洗濯や、お着替え袋に洋服の補充の協力ありがとうございます。

これから、泥遊び・水遊びと着替えることが増えてきます。洋服やタオルの記名を大きくお願いします。名前がないと、迷子になってしまいます。記名の確認にご協力よろしくお願いします。

「元気のもと」を育む 一元気のない子どもに親がしてやれること一

親から満足され、愛されているという実感と自分が親に喜びを与えているという実感が、子どもに元気を与えます。

ありのままの子どもに満足する

子どもの心に育みたい「元気のもと」の一つ目は、「親から満足され、愛されている」という実感です。どんな子どもにも、親から見て、不足に感じるところや直してやりたいところ、弱点や欠点があるでしょう。しかし、そこに多くの関心を向けることは、子どもに劣等的な意識を抱かせます。一方、どんな子どもにも、感心するところや、弱点や欠点に見あった長所が必ずあります。親が価値観や好みを狭くしていると「あれがよくない、これができない」と、欠点や弱点ばかりが目に入ります。

まず親が子どものよい面を見つけて、そのことに喜びを抱きながら、日々の生活を送るという意識を失わないように心がけなければなりません。親は、子どものありのままの姿を肯定的に受けとめ、歓迎しましょう。そうして初めて、子どもは親から十分に愛されていると感じ、自分の性格や能力に肯定的な実感を抱けるようになっていくのです。

子どもの欠点や弱点を見いだして修正する養育や教育は、あくまでそのあとのことです。この順序を誤ると、子どもへの愛情が伝わりにくく、養育や教育の成果もあがっていかないということを、よく知っていただきたいと思います。

どんな子どもに対しても、その子どものもって生まれた個性や能力に満足し、日々肯定的な態度で接しながら愛情を伝え続けることができる親や教師が、優れた養育者や教育者だといえるのです。

子どもにかぎらず、人間の元気や意欲は、自分のありのままの姿が親をはじめとする周囲の人たちから受容、承認され、「私はこのままでいいのだ」という安心感や自信をもつことで、心の底からわいてくるものなのです。～～続きは、また後日～～